

農ある私たちはお野菜を見せびらかす

ー新長州ファイブー

代表者 石飛知憲（工学B 3年）
構成員 甲斐大駆志（工学B 3年）益晴人（工学B 3年）伊藤紘平（工学B 3年）
菅祥英（工学B 3年）嶋津虎彦（工学B 3年）
吉光南人（工学B 3年）本永悠太郎（農学B 1年）
衣川愛香（理学B 1年）前田綾（理学B 1年）

1. はじめに

本プロジェクトでは、農業とITを通じた地域活性化と子ども支援活動を行いました。団体の活動は3年目で、耕作放棄地だった田んぼを畑に転用し、約 2,000 m²の広大な農地を活かしたイベントや特徴的な作物の栽培を行っています。活動理念として、「大きい」、「かつこいい」、「世界一辛い」など、インパクトのある作物を育てることで、私たち自身も楽しみながら活動することを大切にしています。

2. 活動目的

本プロジェクトの目的は、農業とITを通じた地域活性化と子ども支援活動です。地域活性化に関しては、ビアガーデンやしば学祭などのまちづくりイベントに参加し、私たちの特色を活かした出展でイベントを盛り上げることを目指します。子ども支援活動では、農業体験イベントを実施し、地域の子どもたちが自然と触れ合いながら学べる場を提供します。また、子ども食堂への農作物の提供や運営を通じて、子どもたちの健やかな成長と食育を支援します。さらに、収穫物の一部を道の駅やJAで販売するほか、医学科の新薬研究団体へ試料を提供するなど、農業を軸に幅広い活動を展開していきます。

3. 活動内容

3. 1 巨大カボチャの栽培

アトランティックジャイアントという巨大なカボチャの栽培を行いました。昨年度は病気が多発し、肥大化させることができませんでしたが、今年度は徹底した環境整備と計画的な防除により、最大約 50kg の巨大カボチャの栽培に成功しました（図1）。収穫後は宇部市中央町で開催されたビアガーデンの目玉展示として出展し、イベントの盛り上げに貢献することができました（図2）。また、工学部キャンパス内にハロウィンの飾り付けをして展示しました（図3）。



図1 巨大カボチャの収穫



図2 ビアガーデンでのカボチャ出展



図3 工学部内でハロウィン装飾されたカボチャ

3. 2 「IT×農業」子どもプログラミングイベント

昨年度に引き続き、山口大学工学部ものづくり創生センター・宇部高専・宇部市と共同で、IT×農業をテーマにした子どもプログラミングイベント「スマートプレイふぁーむ」¹⁾を開催しました(図4)。このイベントでは、マイコンやドローンなどを使い、子供たちの自由な発想から生まれた畑に関する遊びや発明を、プログラミングによって現実のものにし(図5)、さらに、畑で実際に発表し、みんなで使って遊ぶところまでを行いました。今年度の作品は、害獣避けアラーム、マイコンから操作するドローンによる空中探索、虫集め競争などがありました。子どもたちの思いをなるべく実現できるよう自由度を大切にしつつ、事前の徹底した安全対策と準備を行うことによって、スムーズな運営を行うことができました。このイベントの様子は、宇部日報にも掲載されました²⁾。



図4 第2回 スマートプレイふぁーむ 集合写真



図5 マイコンをプログラミングしている様子

1) 令和6年度スマートプレイふぁーむ <http://www.mono.eng.yamaguchi-u.ac.jp/supportproject/challenge.html>

2) ITで農業課題の解決を、子どもプログラミング教室(宇部日報デジタル 2024年8月13日)

<https://ubenippo.co.jp/2024/08/13/4002362/>

3. 3 古民家と子ども食堂

地域の NPO 団体と共同で古民家を改装し、子ども食堂やイベントが出来るスペースの構築を行いました。飲食店としての営業許可を取得し、子ども食堂のプレ実施を2回行うところまでたどり着くことができました(図6)。一度に20人ほどの利用者がいるという想定で、募集・食材調達・調理・片付けなどの運営の流れと必要な人員やコストを把握することができました。



図6 子ども食堂の外観

3. 4 地域イベントへの参加

宇部市中央町の活性化を目的にイベントを開催している「まちなかイベント実行委員会³⁾」に参加し、イベントの企画や運営の補助を行いました。また、野菜の出店も行いました。同じく中央町で山口県内の学生が学校・専攻の垣根を越えて開催した「しば学祭⁴⁾」では、企画の初期段階から関わるとともに、団体として初めての飲食店の出店を行いました(図7)。コンフリ宇部⁵⁾の方の全面協力により、自家製パイヤに漬けて柔らかくしたタンドリーチキン、自家製サツマイモ入りカレー、手作りナン、自家製サツマイモチップスの4品を販売することができました。



図7 しば学祭で出店した飲食店

3) まちなかイベント実行委員会 <https://yccu.place/machinaka/>

4) しば学祭 <https://yccu.place/20240928/>

5) コンフリ宇部 https://www.instagram.com/conflictalecube_ube/

3. 5 日常管理と販売

今年度は、70 種類以上の作物を効率的に栽培するため、徹底した管理を行いました。こまめな草刈りや除草、防除を行い、昨年度とは比較にならないほどの収量を得ることができました。機械や薬剤を使う危険の伴う作業も多いため、日頃から点検・整備の徹底と安全対策の継続的な改善を行っています（図 8）。また、JA の朝市や新鮮館に定期的に作物の出荷を行いました（図 9）。少額でも継続的な収入があることで、活動の持続性をより強固なものにすることができました。



図 8 エンジンポンプの分解整備の様子



図 9 朝市の出荷準備

4. 課題と展望

今年度団体として関わった主なイベントは、来年度以降も継続する方針です。今年度の子ども食堂のプレ実施では、利便性と公益性のバランスに関する問題が浮かび上がりました。現在は、定期的な実施を目指して調整中であり、令和7年中頃には結論が出る見通しです。作物については、昨年度比では大成功であったものの、特に病害についての対策が後手に回りがちであったため、今後は病害発生前の予防的処置を検討するとともに、圃場の周辺環境整備も含めた総合的な防除を行います。また、これまで培ってきた知識や経験を、他の学生団体や地域へ直接還元することにも取り組んでいきます。

5. おわりに

今年度は、活動規模の拡大もあって決して順調とは言えない一年でした。運営面では至らない点も多く、度重なるご迷惑やご心配をおかけしたことと思います。それでも活動を継続し、新たな挑戦を行うことができたのは、支援教員の小柴先生をはじめ、コンフリ宇部の代表の方、JA 山口県宇部支所の方、まちなかイベント実行委員会の皆様など、多くの方々のご理解とご協力のおかげです。また、山口大学おもしろプロジェクト、山口大学基金、山口大学工学部常盤工業会の皆様のご支援にも、心より感謝申し上げます。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。